

私の宝物 ～四人のお姉ちゃん～

旭川市立緑が丘中学校 古崎愛奈 3年

私は五人弟妹の長女です。下には三人の弟と一人の妹がいます。五人もいると毎日がてんやわんやです。今まで何度両親に弟妹を訴えたことでしょうか。こんな私ですが、四人からは多くの幸せをもらいました。

長男には言ったことを守ってもらえなく、うんざりします。ですが彼は、優しく、素直に気持ちを伝えてくれます。私はこの優しさと素直さに励まされています。そして素直に気持ちを伝えてくれることに羨ましさを感じています。

次女とは時々性格、価値観の違いで喧嘩が勃発してしまいます。女子同士なのでなかなか喧嘩が終わりません。ですが彼女は、私が家にいないとき必ず、「愛奈がいないと寂しいね。」と言っていたと母から聞きました。なんだかんだ姉思いのツンデレな妹なんです。

次男とは特に喧嘩は起きません。ですが、彼のマイペースさに振り回されて疲れてしまうことはあります。そんな彼ですが、時に彼のマイペースさが優しさや気遣いの心を生んで私を救ってくれます。いつも予想外の自由人です。

最後に三男。私にとって一番厄介な相手です。小さい割に態度が大きく、少しばかり生意気な態度。私にとって「混ぜるな危険」の子ですが、ふと笑みが溢れてしまう優しさがあります。泣いている時、そっとティッシュで涙を拭いてくれたこと。荷物があると一緒に持ってくれること。私にとって一番厄介ですが、一番頼りになる子です。

私は四人に幸せをたくさんもらいました。その中でも私は「愛おしさ」をととても感じています。なぜこんなに四人のことを大切に思えるのか。それは私が四人の「姉」である事実が「弟妹」を愛おしい存在にさせているのだと思います。

私は今まで四回の奇跡をそばでみてきました。弟妹ができると聞いた時の動画の中には満面の笑みで喜んでいる私がいきました。けれど、もし私が一人だったら。私はこんなにも多く、早くは感じれなかったでしょう。「みんな入れないからもっと詰めて」と言って撮った家族写真はもっとゆとりがあったかもしれません。私が四人に怒ったり泣いたりした時間は、私が怒られている時間かもしれません。四人が私に与えてくれたことは一生、手に入らないことだったかもしれません。

私は四人のそばにいてとても幸せです。私をお姉ちゃんにさせてくれてありがとう。